

あいう屋のたより



発行責任者

西川 晃二

【校長室より】

心の不登校

少年は、離島で育ち、十五歳まで何不自由なく暮らしてきた。ただ、幼少期から孤独というものを何となく感じてきた。自分が他人とは違うのではないかという漠然とした不安を抱いていた。また、それゆえ、級友との衝突が幾度となくあった。いじめられたし、いじめもした。

高校は長崎市内の某校に通い、下宿生活であった。親の仕送りを受けるようになり、初めて家族のありがたさ、両親の深い愛情に思いが至った。両親のためにもがんばらなくてはと、いつも思う日々であった。常に家族を、両親を考えていた。ところが、高校2年の時父親が死に、それまでの求心力を失った少年は本格的に自分というものを考えるようになった。初めてのことである。これまでは常に支えるものがあったが、父親という「支え」を失い、価値観の再構築を迫られたのだ。当時彼は「世界」が見えないと苦悩した。周りの友人が愚かにも見えた。「選ばれた者の恍惚と不安、我にあり」などとうそぶく、唯我独尊的、自己中心的な人間になっていることをその時は気づいていなかった。深夜眠られない日々が続いた。救いは夢に求めた。自分の将来を夢想することでわずかながら自己を保っていた。毎日耳鳴りがして、外界がぼんやりとしたものにしか映らなかった。また、現実から逃避するために宗教や文学にそれを求めた。狂ったように小説を読み漁った。それも深夜から夜明けにかけて読みふけた。朝を迎えると生理的な睡魔が襲い、やっと眠りに就くことができた。学校に行けなくなった。当時は、怠学はあれども不登校という概念はなかった。少年も自己嫌悪に陥る毎日であった。誰も救ってくれないと、周囲を呪詛した。現実には誰彼となく救いの手をさしのべようと努力はしていたが、それが少年には全く見えなかった。こうして少年は何日も何日も登校できない日々が続いた。

卒業式には母親だけが出席した。少年は布団に潜り込んでいた。

.....
以上は、かつて勤めていた学校の生徒会誌に寄稿した駄文の一節である。当時不登校の生徒を抱え、その教え子への何らかのメッセージになればとの思いから物したものであった。

先日、NHKあさイチ「どう向き合う？わが子の不登校」という番組が放映された。いま、中学生39人に1人が「不登校」。前日まで元気に登校していた子どもが、ある朝から突然学校に行けなくなることは決して特別なことではない。しかし、親は戸惑いのあまり、「誤った対応」をとって事態を悪化させることもある。番組では、不登校になった家庭の親、子、それぞれに取材し、家庭で子どもとどのように向きあっていけばよいのか、そのヒントを探った。という番組内容であった。

番組では、不登校になったきっかけやその時の親の対応、さらに、中学生に広がる起立性調節障害が紹介された。

起立性調節障害とは「朝、頭痛やめまいでどうしても起きられない。午前中は頭がぼーっとして勉強に集中できない。以前なら無気力、サボりと片づけられてきたこうした子どもたちの影に、ある病気が潜んでいたことが、最近明らかになってきました。その名も起立性調節障害。自律神経の働きが悪くなり、起床時に、脳の血流が維持できなくなって起こります。発症は思春期に集中し、中高生の10人に1人という高い割合で広がっています。重症の場合は服薬など治療をしないと激しい頭痛で朝起きられず、昼夜逆転生活に陥ります。また、この病気は夕方には元気になるため、周囲からサボりと誤解され、本人や家族がづらい思いをすることが少なくありません。家族の会など、患者家族どうしが支えあう動きも広がっています。」ということでした。

昨年6月28日「いじめ防止対策推進法」が公布され、同年9月には施行されました。現在、本県においても、いじめ防止基本方針が策定され、学校現場においても方針の策定が求められています。不登校といじめとの関連も抜きがたいものがあります。特に学齢低学年の子どもにおいては深いはずです。番組ではいじめを原因とするのは、わずか2.1%としていますが、友人関係が15.7%であり、いじめと截然と区別はできないと思うのです。いま子どもたちは、理想的な人間関係を構築できずにいることは確かなのです。かつてのように「学校は勉強するところ」という単純明快な一次方程式が成り立たない世界になっています。明らかな形での不登校ではなくとも「心の不登校」を抱える潜在的な子どもたちが大勢いるということは知らねばならないようです。

不登校になったきっかけと 考えられる状況

学校

- 友人関係(いじめを除く) 15.7%
- 学業の不振 9.5%
- 転入学、進級時の不適応 2.8%
- 学校のきまり 2.2%
- クラブ、部活動への不適応 2.2%
- いじめ 2.1%
- 進路にかかる不安 1.5%
- 教職員との関係 1.5%

文部科学省調べ

1月22日NHKあさイチ

頑張れ！3年生！

頑張れ！3年生！



センター試験激励会

1月18日（土）19日（日）のセンター試験に向けて、前日の16：40からセンター試験激励会が行われました。校長先生、学年主任の激励の言葉に続いて、生徒代表の3年4組祝貴之君が決意表明を行いました。「校長先生から生徒全員にいただいたキットカットと硬い石（固い意志）をポケットの中で握りしめ、自己ベストを目指します。」という力強い言葉に生徒全員の気持ちが引き締まりました。その後、1・2年生から各クラスに折り鶴の贈呈があり、最後は恒例の各教科からのアドバイスとなりました。各教科、緊張している受験生をリラックスさせようと趣向をこらしたアドバイスを行いました。この様子は部外秘ですので1・2年生のみなさんは来年をお楽しみに・・・

試験当日は天気にも恵まれ、生徒全員、感謝の気持ちを持って試験に臨みました。しかし、まだまだ通過点、その日から2次試験に向けて、また、気合いを入れ直して頑張っています。

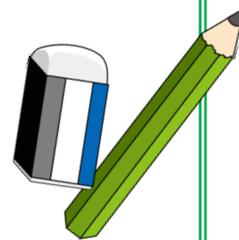
国公立大学

個別試験に向けて

センター試験も終わり、特別編成授業が始まりました。2月25日の前期試験、3月8日の中期試験、3月12日の後期試験に向けて、それぞれに頑張っているものと思います。試験場で立ち向かうのは一人ひとりの力ですが、そこにたどり着くのは五島高校に集う全員の力です。すでに進路が決まっている人も、全く違う進路を歩もうとする人も、互いに意識を高めあって、それぞれの進路に役立てましょう。



中地区学習交流会



1月11日（土）、12日（日）の2日間、中地区の難関大学を志望する高校2年生を対象に、島原高校を会場に学習交流合宿が開催されました。中地区7校から総勢100名が参加し、文系難関・理系難関・東大京大の3講座に分かれ国英数3教科の講義を受けました。本校からは13名の生徒が参加し、レベルの高い講義や他校の生徒との交流会を通して、受験に関する様々な情報を得ることができました。とても良い刺激を受けたようです。

◇◆ 生徒感想（抜粋） ◆◇

- ・今回初めて自分の高校以外の生徒と交流して、長崎県のレベルを知ることができました。他の高校と比べて自分の力のなさを痛感したので、この悔しさをバネにこれからの学習につなげていきたいと思います。
- ・今回の学習交流会を通して、自分よりも学力が高い生徒がどの程度なのか実感することができて、正直「すごい」と思う気持ちもあったけれど、悔しくて自分も解けるようになりたいという気持ちも生まれました。この気持ちを大切にして、これまでの自分を改めて頑張ります。また自分が得た知識や情報などをクラスにも持ち帰って、よりよい学校生活にしていきたいです。そして、みんなで3年生の最後にいい思いができるようにします。
- ・この学習交流会で1番印象に残っているのは、夜の150分間の自学です。他校の生徒達と全員での自学でしたが、誰一人としてしゃべることなく、今までで一番学習のしやすい自学の時間であったかなと思います。自分たちの学校でも同じような自学ができるように、まずは私からしっかりとした雰囲気作りをしていこうと思います。



第35回下五島地区高等学校

百人一首大会

1月15日（水）五島高校セミナーハウスにて下五島地区高等学校百人一首大会が開催されました。五島高校、五島海陽高校、五島南高校、奈留高校の4校から35名の生徒が参加して、かるたの腕前を競い合いました。

総当たりで3試合を行った結果、五島高校が3勝を上げ、9連覇を果たすことができました。試合の後は、それぞれの代表が各学校の紹介を行いました。その紹介の後、みなで輪になって懇親会を行いました。他校の生徒と、楽しそうに学校生活について話していた姿が印象的でした。

伝統ある大会で連覇を果たすことができ、うれしく思います。今後とも応援よろしくをお願いします。

薬物乱用防止教室

平成26年1月21日（火）、本校体育館において1・2年生を対象に薬物乱用防止教室を行いました。講師として五島市警察署生活安全課から野田直哉様をお招きしてDVD上映および講話を行っていただきました。

DVD上映では、MDMAという薬物に手を出してしまい幻聴や幻覚の症状が出て身を滅ぼしてしまった話、大麻を吸ってしまったことによって重大な自動車事故を起こしてしまった話の2部を上映して頂き、生徒のみなさんは真剣に鑑賞していました。

また講話では、薬物に手を出してしまったことにより家族をバラバラにしてしまった実例を挙げていただきました。薬物に手を出してしまったらどういう状況になってしまうかがDVD上映や講話によって改めて分かったようです。また、インターネットでも薬物を簡単に購入できる世の中になっていることも教えて頂きました。生徒の皆さんは改めて薬物の恐ろしさを知り、絶対に薬物には手を出さないという気持ちを強くもったようです。

全九州高鍋大会（バドミントン）

私達、男子バドミントン同好会は一月に行われた、全九州高鍋大会に出場しました。長崎県の大会にしか出場経験がない私達は、勝ちたいと強く思う反面、自分たちの力がどれだけ通用するのかという不安もありました。また、今回の大会は五島高校の代表だけでなく、長崎県代表という立場で参加しました。私達の行動一つ一つが、長崎バドミントン界の品位を決めるかと思うと、非常に緊張しました。

結果は、予選トーナメントを、二位で通過し、各トーナメントの二位からなる二部リーグで優勝することができました。予選で敗退したときも、また一部リーグの学校とも大きな力の差を感じました。もっと練習をし、自ら崩れない強い選手にならなければいけないと思いました。

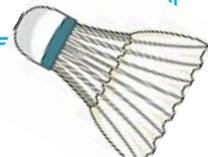
また今大会では、私は負傷をしてしまい、途中から試合に参加することができませんでした。そのような中で、チームが一つとなり、シャトルを最後まで追いかけて、勝利を掴む仲間の姿を見て、私には最高の仲間がいるということを感じました。今大会で感じたことを高総体に活かして、優勝したいです。

二年五組 バドミントン同好会主将 濱村 歩夢

生徒達の試合を見るたびに、彼らの可能性の大きさに驚かされます。今までとは別人のように、強く逞しいプレーをしてくれます。それは、試合後の彼らの行動にも反映されます。荷物の整理をはじめ、あいさつ、片付け。もちろんその逆もあります。自分の力を全く発揮できない。試合後もその雰囲気を引きずってしまう……。

いずれにしても、”心のあり方”だと思います。日頃の練習も重要ですが、ここぞという大切な瞬間は、その人の”心のあり方”で結果が左右されるように思います。特に高校生には、それを強く感じます。今大会では、未知の相手と試合をするにあたって、彼らの強い心と弱い心を再確認することができました。技術向上も必要ですが、上手い選手よりも強い選手を目指して、心を鍛えていきたいと思います。

バドミントン同好会顧問 今鹿倉 直



○第43回ハイスクール・ジャパンカップソフトテニス2014シングルス大会

【個人】 竹山凜成 ベスト16 久保幸太郎 予選リーグ敗退

○平成25年度長崎地区高等学校学年別剣道大会

【1年女子個人】 第3位 與田 瑞希

○第44回太宰府かるた競技大会

【梅花位戦（C級）】 優勝 入口育美 4位 大石恵子

【大納言位戦（D級）】 優勝 道下このみ 3位入賞 久保舞/山下海咲

○平成25年度長崎県高等学校総合文化祭 第9回県写真展

最優秀賞 樽角奈々美「早く帰ってこないかな…」



●第14回全九州高等学校バドミントン大会高鍋大会（団体戦）

| | | | |
|--------------|----|------|------------|
| 【男子団体】 予選1回戦 | 五島 | ○3-1 | 佐賀工業 |
| 予選2回戦 | 五島 | ●2-3 | 済々黌（熊本） |
| 2部決勝リーグ | 五島 | ○4-1 | 東海大星翔（熊本） |
| | 五島 | ○3-2 | 聖心ウルスラ（宮崎） |
| | 五島 | ○4-1 | 宮崎工業 2部優勝 |

○平成25年度長崎県高等学校新人体育大会バスケットボール競技

| | | | |
|----------|----|----------|-------|
| 【男子】 1回戦 | 五島 | ○ 82-78 | 佐世保高専 |
| 2回戦 | 五島 | ● 48-77 | 佐世保北 |
| 【女子】 1回戦 | 五島 | ○ 82-62 | 佐世保商業 |
| 2回戦 | 五島 | ○ 95-91 | 佐世保北 |
| 3回戦 | 五島 | ● 51-104 | 長崎商業 |